

習志野市学校施設再生計画策定に関する提言書 資料編(案)

1.学校施設再生計画に基づく小中学校に係る事業に関する実績及び予定一覧【平成26年度～平成29年度_暫定版】

◎ 実績評価欄の見方:「A」は、おおむね計画通りの実施及び実施予定、「B」は、計画を一部実施(今後は通常の保全業務で対応可能)、「C」は、計画を一部実施(次の改修等時期までに未実施部分の対策が必要)、「D」は、未実施

(単位:千円)

No	名称	今期の事業概要	築後年数 H30.4月 時点		第1期計画期間						期間内 事業費合計	実績評価	事業の実施状況	事業の実施段階での課題	今後の課題等
					← H26	H27	実績 H28	← 予定 H29	H30	H31					
1	谷津小学校	建替	校舎 53 体育館 57	学校施設再生計画	45,000	63,000	100,000	123,000	1,167,000	2,585,000	4,083,000	A	学校規模が想定をかなり上回る見込みとなったことから、対応策の検討に時間を要した。その結果、計画が1年延伸。	平成30年度に工事発注済み。	安全確保と教育環境を維持しながらの着実な事業の実施。
				実績及び予定	21,498	16,148	47,739	74,469	554,934	2,777,281	3,492,069				
2	大久保小学校	建替	校舎 53 体育館 59	学校施設再生計画				51,000	120,000	684,000	855,000	D	建替手法や敷地条件などの課題解決に向けた検討に時間を要したことから実施時期を延伸し検討作業中である。	平成30年度は関係者の合意形成に向けワークショップを開催しており、その結果を踏まえ早期の事業化をめざす。	改築が寿命化かの結論を出し、早期の事業化をめざすとともに、建て替え時のグラウンド確保が必要。
				実績及び予定						検討					
3	大久保東小学校	改修 (トイレ)	校舎 55 体育館 47	学校施設再生計画	15,000	149,000	149,000				313,000	C	建築費の高騰により、計画事業費とのかい離が大きくなり、設計のみに留め、改善要望の大きいトイレ改修のみを実施。	国の交付金が耐震補強工事に優先的に配分されたため、財源確保ができなかった。	建築後50年を越えていることから、第2期以降に大規模改修を実施するのか、建替、長寿命化に取り組むのかを検討する必要がある。
				実績及び予定	101,186										
4	袖ヶ浦西小学校	改修	校舎 55 体育館 45	学校施設再生計画	34,000	201,000	201,000				436,000	A	工事費の増加、国の交付金の不採択などにより、計画を2年延伸し、事業を実施。	老朽化が進んでいるため、工事内容が多岐にわたり、3年間で事業完了が出来なかった。また、事業費が想定以上に過大となったことから、工事内容の見直しが行われていない。	適切な維持保全が必要。
				実績及び予定	24,389	13,770	207,490	179,994	276,282		701,925				
5	東習志野小学校	改修	校舎 49 体育館 47	学校施設再生計画		23,000	215,000	215,000			453,000	B	工事費の増加、国の交付金の不採択などにより、計画を2年延伸し、事業を実施中。事業費が大幅に増加した。	老朽化が進んでいるため、工事内容が多岐にわたり、3年間で事業完了が出来なかった。また、事業費が想定以上に過大となったことから、工事内容の見直しが行われていない。	適切な維持保全が必要。
				実績及び予定		25,999	88,052	296,020	227,574		637,645				
6	屋敷小学校	改修 (トイレ)	校舎 46 体育館 45	学校施設再生計画			20,000	187,000	187,000		394,000	C	大規模改修の事業費の確保が困難な見込から、児童の生活環境を改善するためトイレ改修を先行実施中。	29年度から工事を実施。	建築後50年に近づき、改修時期も迫っていることから、第2期以降に大規模改修を実施するのか、建替、長寿命化に取り組むのかを検討する必要がある。
				実績及び予定			4,253	96,330	81,249		181,832				
7	藤崎小学校	改修 (トイレ)	校舎 44 体育館 42	学校施設再生計画			15,000	139,000	139,000		293,000	C	大規模改修の事業費の確保が困難な見込から、児童の生活環境を改善するためトイレ改修を先行実施中。	30年度から工事を実施。	建築後50年に近づき、改修時期も迫っていることから、第2期以降に大規模改修を実施するのか、建替、長寿命化に取り組むのかを検討する必要がある。
				実績及び予定			4,485	96,250		100,735					
8	向山小学校	改修 (トイレ)	校舎 43 体育館 40	学校施設再生計画			17,000	161,000	161,000		339,000	C	大規模改修の事業費の確保が困難な見込から、児童の生活環境を改善するためトイレ改修を先行実施中。	30年度から工事を実施。	建築後50年に近づき、改修時期も迫っていることから、第2期以降に大規模改修を実施するのか、建替、長寿命化に取り組むのかを検討する必要がある。
				実績及び予定			4,485	92,664		97,149					
9	谷津南小学校	改修	校舎 33 体育 33	学校施設再生計画				13,000	125,000		138,000	A	工事の設計を1年延長し、2か年で実施し、トイレ改修を含む大規模改修工事を実施予定。	30年度から31年度にかけ設計を実施。設計と並行して、31年度から工事を実施予定。	適切な維持保全が必要。
				実績及び予定				13,576		13,576					
10	第一中学校	改修 (トイレ)	校舎 47 体育館 46	学校施設再生計画			22,000	209,000	209,000		440,000	C	大規模改修の事業費の確保が困難な見込から、児童の生活環境を改善するためトイレ改修を先行実施中。	29年度から工事を実施。	建築後50年に近づき、改修時期も迫っていることから、第2期以降に大規模改修を実施するのか、建替、長寿命化に取り組むのかを検討する必要がある。
				実績及び予定			3,588	60,558	89,890		154,036				
11	第二中学校 (体育館を先行)	建替	H29 新設	学校施設再生計画	33,000	32,000	184,000	430,000		33,000	712,000	A	計画期間を1年延長し建替事業を実施中。再生計画の事業費に比べ、大幅に事業費が増加した。	設計段階で、建築工事以外の調整事項が数多く発生し、調整等に時間を要した。	次に控える校舎建替事業の検討。
				実績及び予定	21,251	31,885	67,892	823,163	170,503		1,114,694				
12	第四中学校	改修	校舎 50 体育館 41	学校施設再生計画		26,000	248,000	248,000			522,000	B	計画期間を1年延長し、限られた事業費の中でトイレ改修を優先し、残った財源で一部の大規模改修を実施中。	27年度から工事を実施。	残された改修項目についての実施の有無、実施時期について検討が必要。
				実績及び予定		22,945	78,177	310,889	312,070		724,081				
13	第六中学校	改修 (トイレ)	校舎 40 体育館 39	学校施設再生計画				25,000	236,000		261,000	C	大規模改修の事業費の確保が困難な見込から、児童の生活環境を改善するためトイレ改修を先行実施中。	30年度から工事を実施。	50年改修時期も迫っていることから、第2期以降に大規模改修を実施するのか、建替、長寿命化に取り組むのかを検討する必要がある。
				実績及び予定				3,650	84,456		88,106				
14	耐震補強 非構造部材改修	耐震 補強等	-	学校施設再生計画	1,028,000	138,000					1,166,000	A	計画期間が1年延長となったが、平成28年度に小中すべての耐震改修が完了した	国の補助が優先的に配分されたため、財源確保ができた。	適切な維持保全が必要。
				実績及び予定	853,649	205,073	24,926				1,083,648				

※金額は基本設計・実施設計、工事監理、本体工事(解体・外構を含む)等とし、原則として関連工事費は除く。

※計画額は当初の計画額

※平成30年度の事業費は予算額。また、平成31年度に金額があるものは継続費等、事業費が明確な場合に計上。

2. 学校施設の改修状況

- ・これまで、学校施設の老朽化及び耐震性能の確保のために、学校施設整備計画及び学校施設再生計画(第1期計画:平成26(2014)年から平成31(2019)年)に基づき、大規模改修工事及び耐震補強工事に取り組んでいます。
- ・トイレ整備状況は、平成31年度末予定での改修率が校舎で約82.3%、屋内運動場で47.8%となる見込みであり、洋式化改修では校舎で50%、体育館は29%の洋式化率となっています。(再掲)

○小・中学校のトイレ整備状況

		校舎			屋内運動場		
		保有 トイレ数	30(2018)年度 整備済予定	31(2019)年度 整備済予定	保有 トイレ数	30(2018)年度 整備済予定	31(2019)年度 整備済予定
小学校	トイレ保有数	147	109	124	16	5	7
	改修率		74.1%	84.4%		31.3%	43.8%
中学校	トイレ保有数	62	45	48	7	3	4
	改修率		72.6%	77.4%		42.9%	57.1%
合計	トイレ保有数	209	154	172	23	8	11
	改修率		73.7%	82.3%		34.8%	47.8%

○小・中学校のトイレ洋式化率の状況

	校舎	屋内運動場	備考
小学校	49%	31%	
中学校	51%	24%	
合計	50%	29%	

3. 余裕教室の発生状況

平成30年5月1日現在の余裕教室の状況は、以下のようになっています。

- ・小学校における保有普通教室は478教室あり、利用状況は、普通教室290教室(60.7%)、余裕教室155教室(32.4%)、特別支援33教室(6.9%)となっています。
- ・中学校における保有普通教室は201教室あり、利用状況は、普通教室116教室(57.7%)、余裕教室70教室(34.8%)、特別支援15教室(7.5%)となっています。
- ・平成24年5月1日現在と比べて、小学校・中学校とも割合が高くなっています。
(小学校:余裕教室148教室(31.9%)、中学校:余裕教室61教室(31.1%))
- ・余裕教室の利用状況は、「その他」利用※を除くと、小学校では一時(多目的利用)及び多目的室としての利用が25教室(16.1%)と最も多く、次いで学童保育室19教室(12.3%)となっています。中学校では、多目的室としての利用が17教室(24.3%)と最も多くなっています。

※「その他」利用としては、特別教室や保健室、図書室など、学校ごとに様々な用途で利用されています。

次頁「図表 小・中学校、高等学校の概要」参照

4. 児童生徒数の推移【2018年度推計】

2023年児童数の推計方法(基本となるデータは、2017年5月の住民基本台帳の人数。特別支援については、児童生徒数は含めた人数、学級数は特別支援学級を除いた数。)

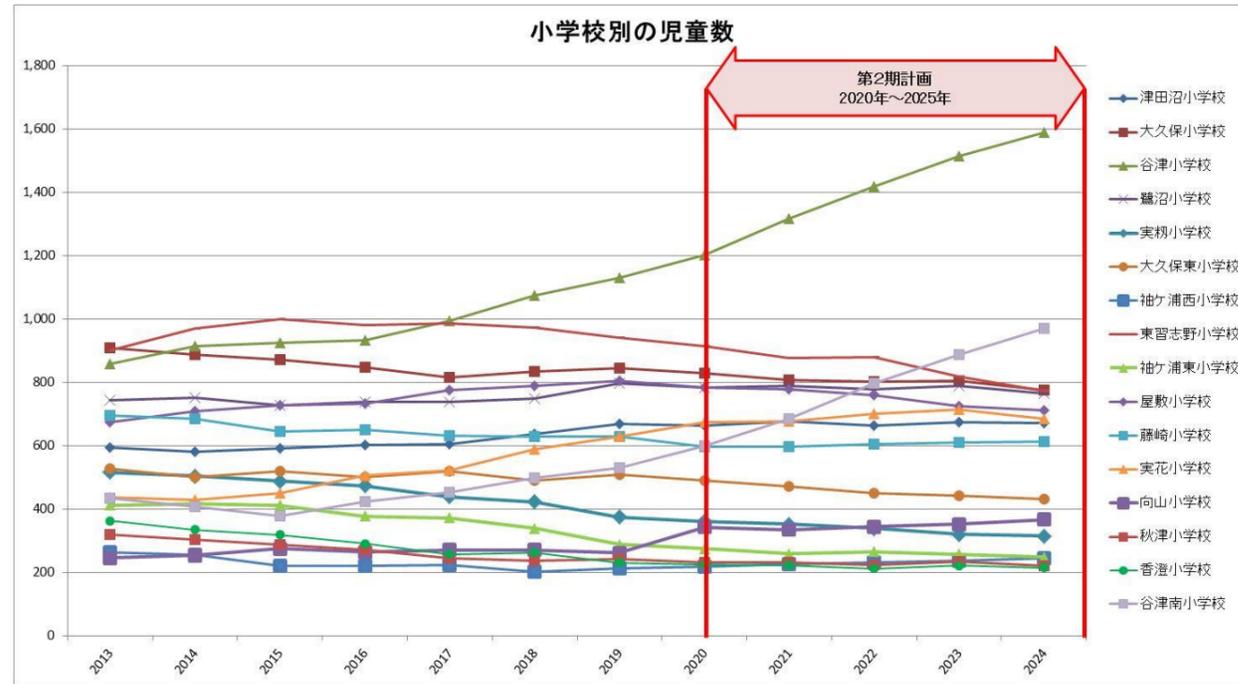
■現況について(2018年)

- ・市内の南側と北側の児童数の差が明確になっています。
- ・特に谷津小、大久保小、東習志野小の児童数が突出して多くなっています。

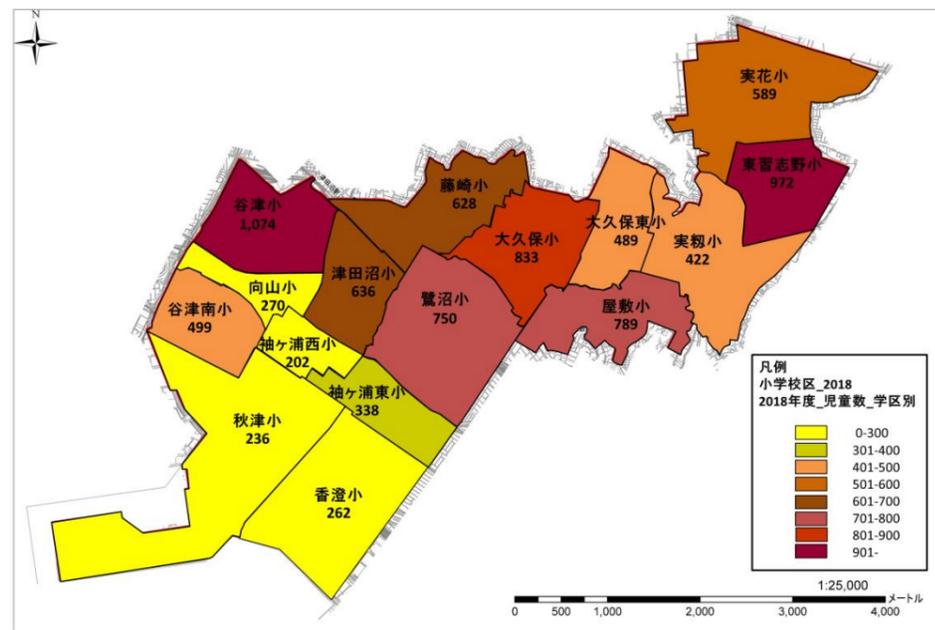
■今後の推移について

- ・谷津小、谷津南小、実花小は著しく増加し、津田沼小、向山小、袖ヶ浦西小でも増加が予想されています。
- ・上記以外では、概ね減少傾向となることが予想されます。特に沿岸部の秋津小、香澄小、袖ヶ浦東小に集中する傾向が見られ、また、内陸側の鉄道駅に近い大久保東小、実習小においても減少傾向にあります。

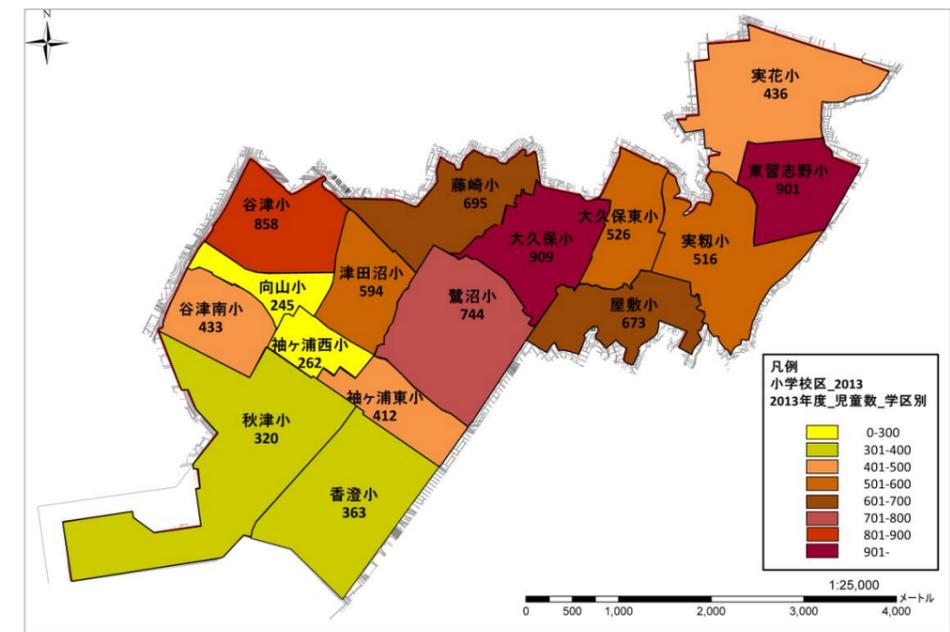
小学校別の児童数の推移(2013年→2023年)



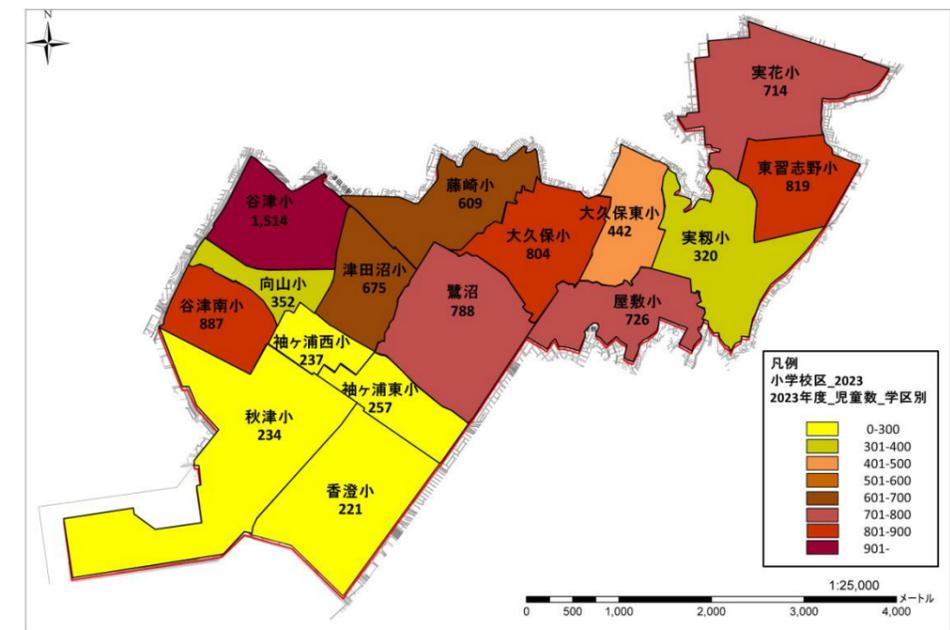
【2018年】



【2013年】



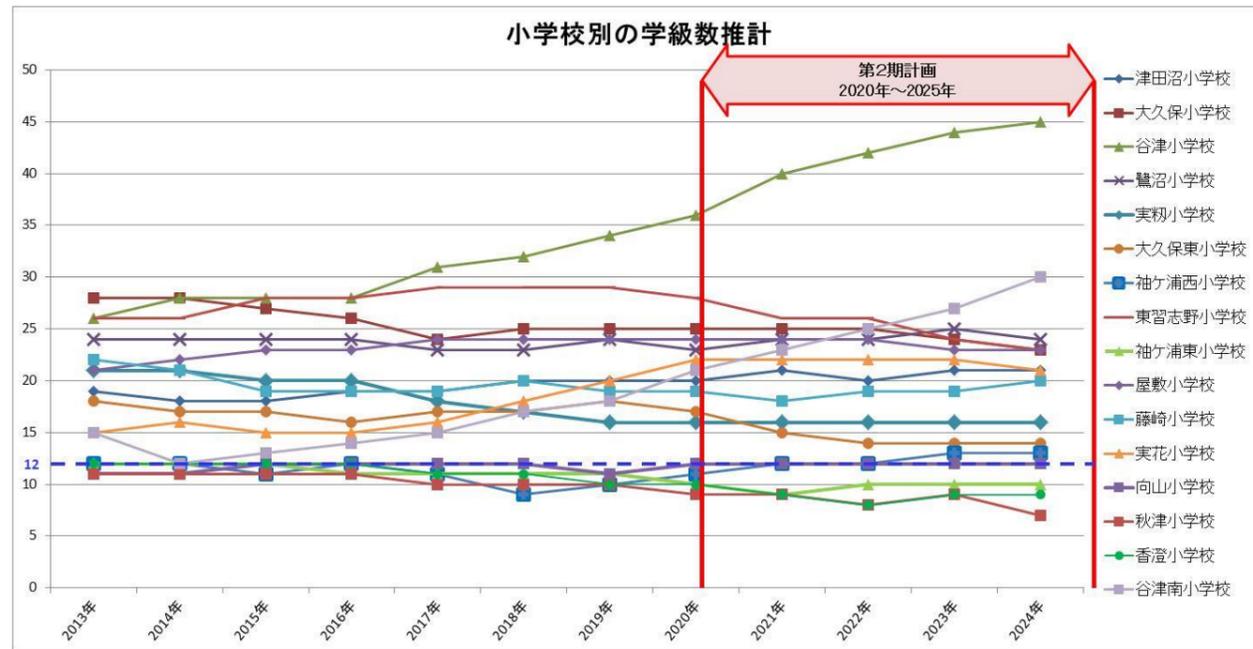
【2023年(推計値)】



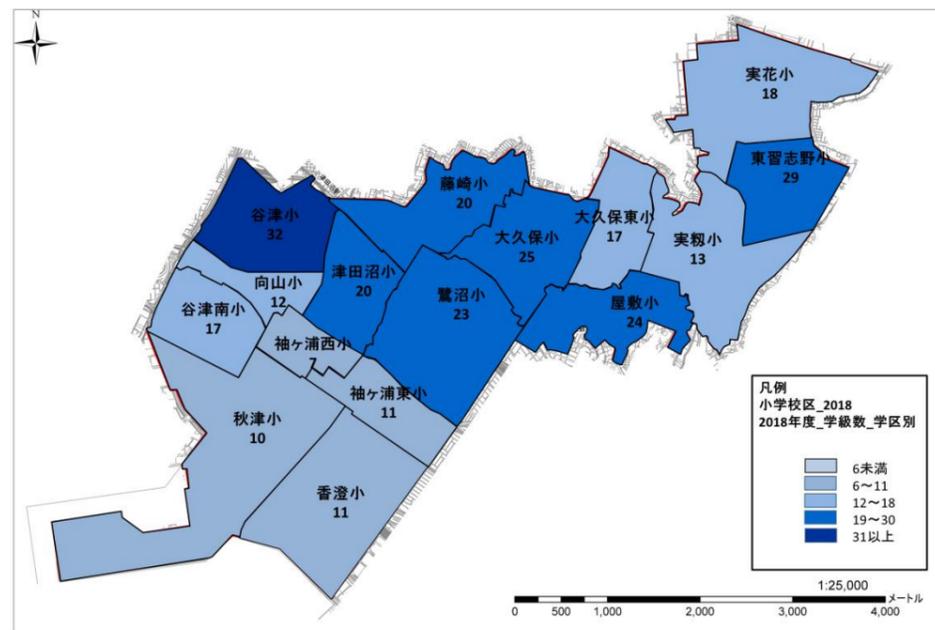
■現況について(2018年)

- ・市内の南側と北側の学級数の差が明確になっています。
- ・学級数は、谷津小 32 学級と最も多く、次いで 20 学級以上は東習志野小(29 学級)、大久保小(25 学級)、屋敷小(24 学級)、鷺沼小(23 学級)、津田沼小(20 学級)、藤崎小(20 学級)となっており、その一方で香澄小(11 学級)、袖ヶ浦東小(11 学級)、秋津小(10 学級)、袖ヶ浦西小(7 学級)は 11 学級以下となっています。

小学校別の学級数の推移(2013年→2023年)



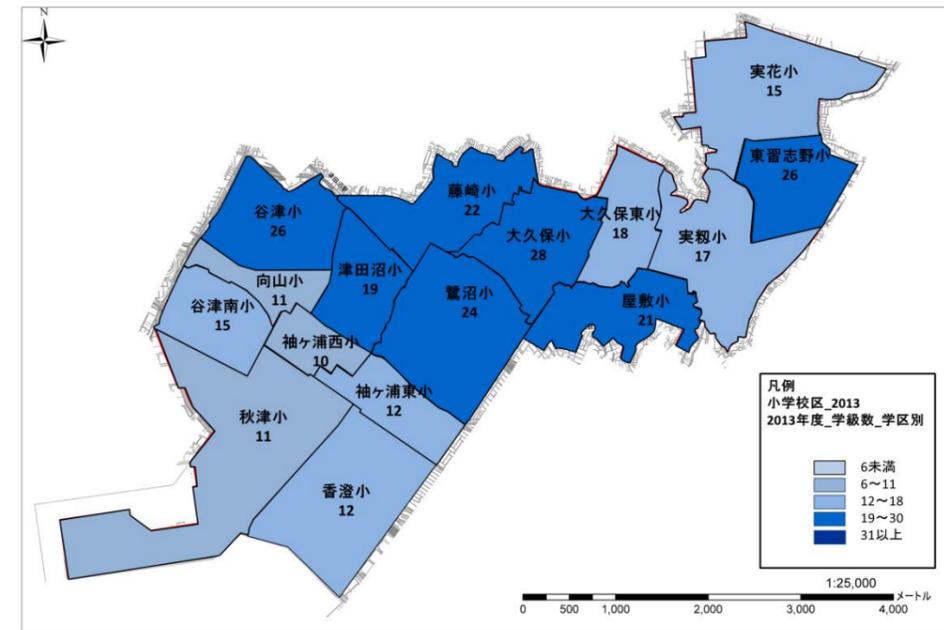
【2018年】



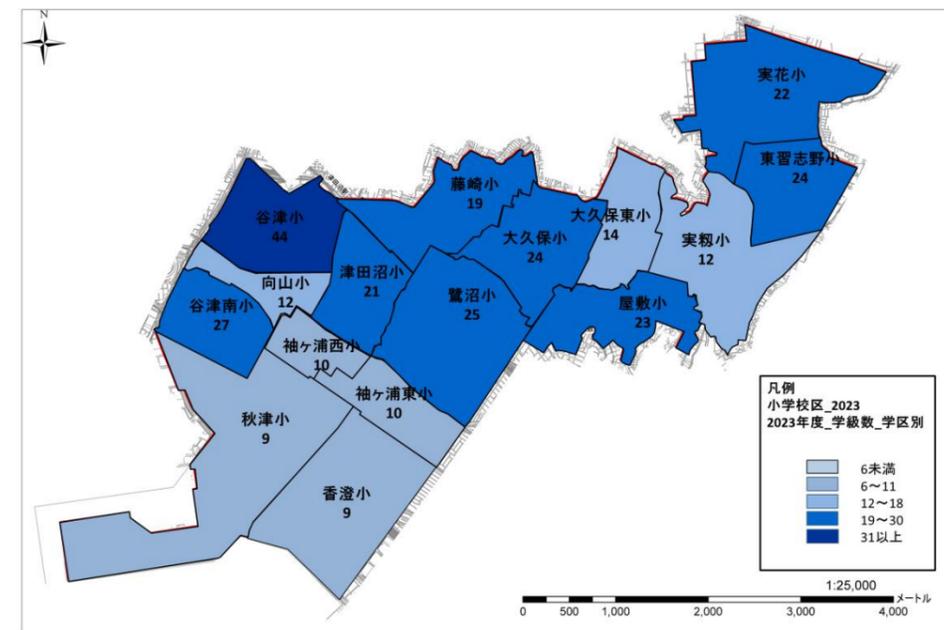
■今後の推移について

- ・谷津小はさらに学級数が増加し 44 学級、谷津南小(27 学級)、実花小(22 学級)、袖ヶ浦西小(10 学級)が増加し、鷺沼小(25 学級)、東習志野小(24 学級)、大久保小(24 学級)、屋敷小(23 学級)、津田沼小(21 学級)、藤崎小(19 学級)は微減で推移すると予想されます。
- ・袖ヶ浦東小(10 学級)、香澄小(9 学級)、秋津小(9 学級)は減少傾向となると予想されます。

【2013年】



【2023年(推計値)】



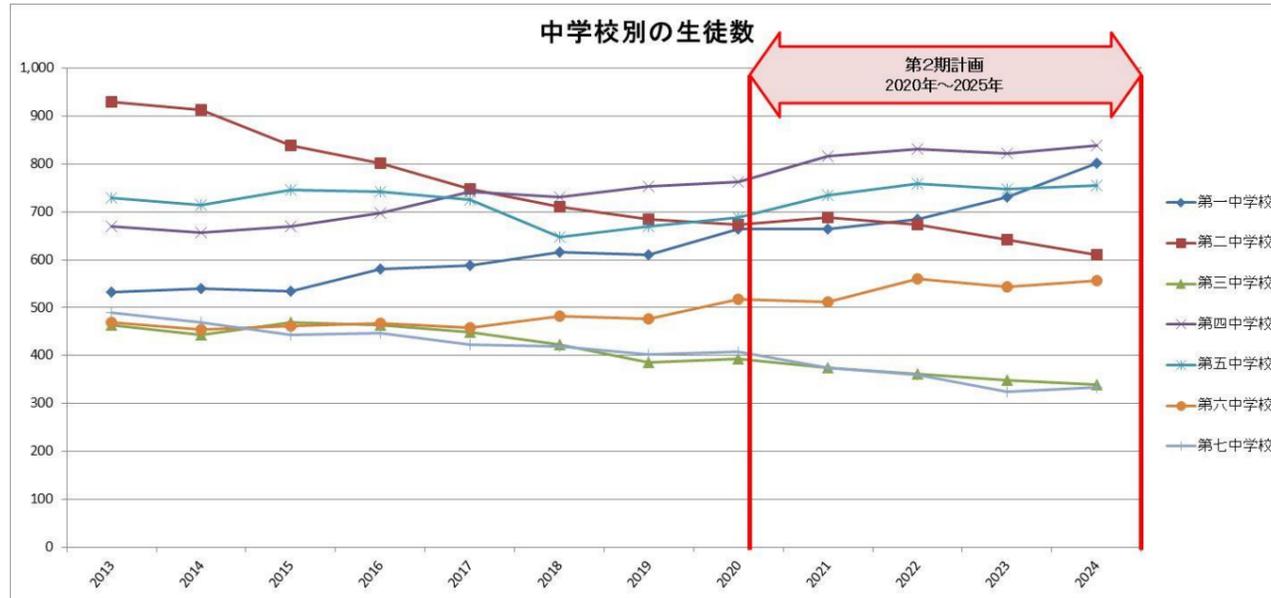
■現況について(2018年)

- ・市内の北側の生徒数が多い傾向にあり、第一中、第二中、第四中、第五中は600人以上となっています。
- ・南側の第三中、第七中は400人台となっており、減少傾向にあります。

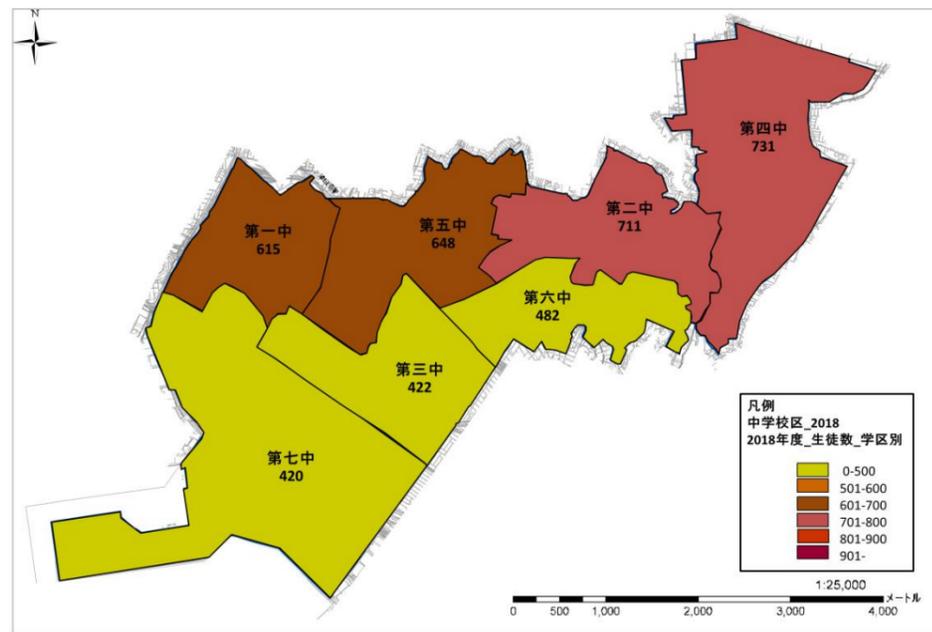
■今後の推移について

- ・第一中、第四中、第五中では、100名前後の大幅な増加が予想されています。
- ・第三中、第七中では、今後も減少傾向が続くことが予想されています。

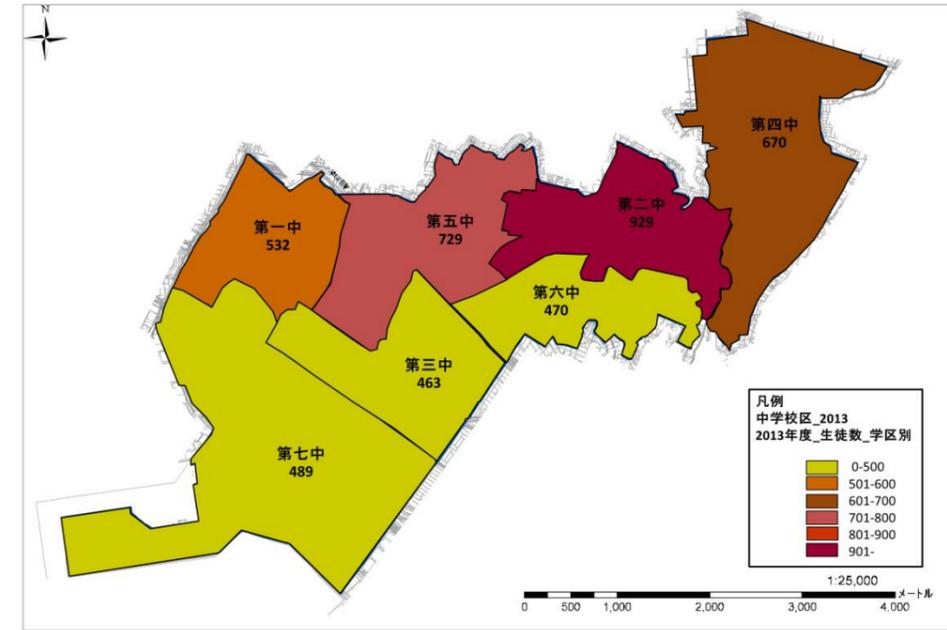
中学校別の生徒数の推移(2013年→2023年)



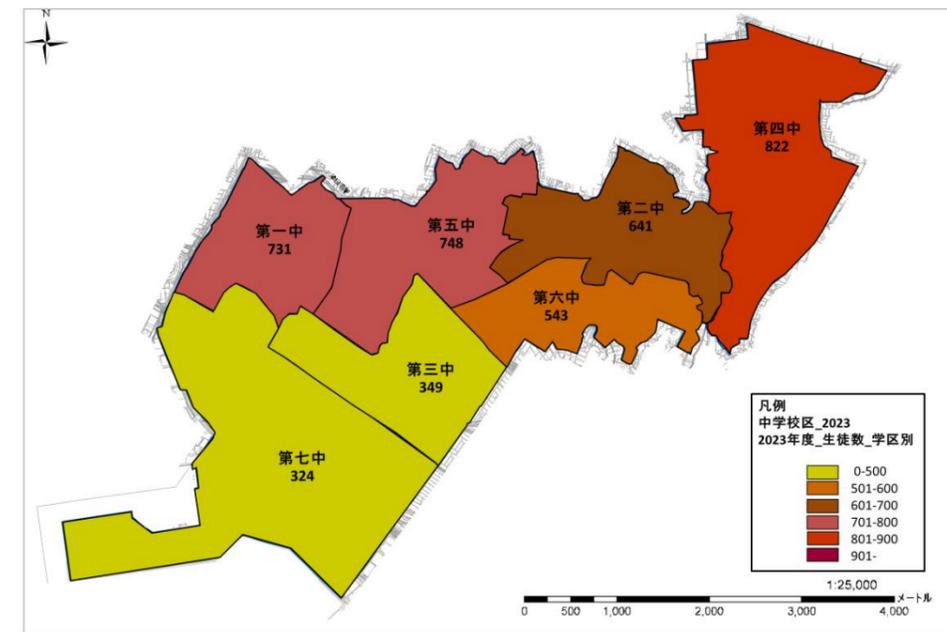
【2018年】



【2013年】



【2023年(推計値)】



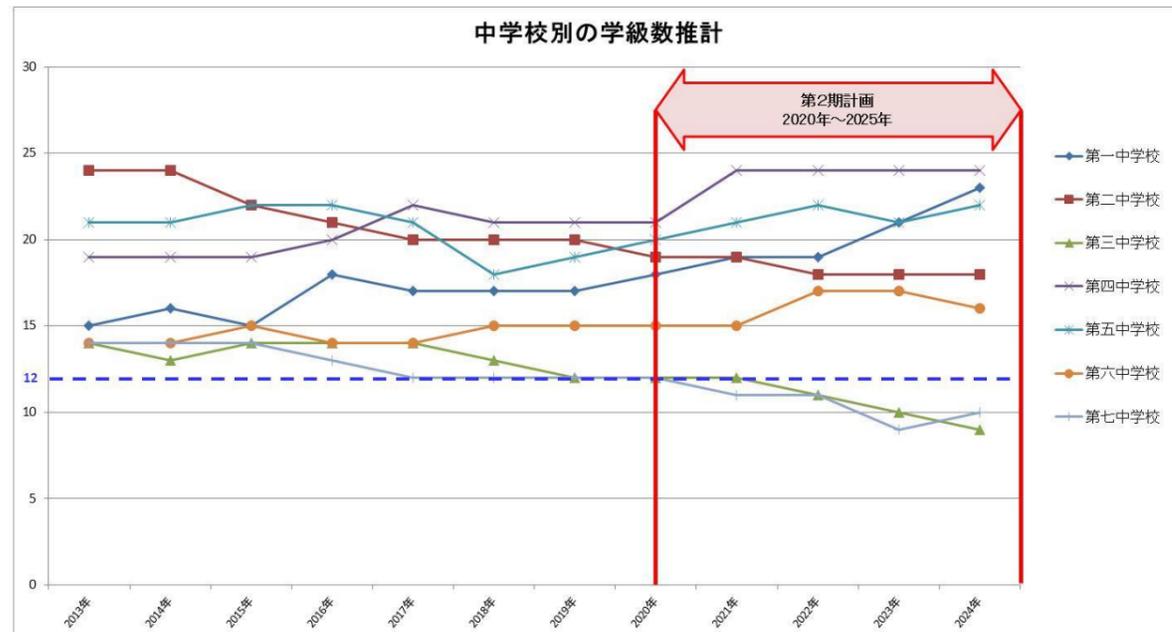
■現況について(2018年)

- ・第四中(21学級)、第二中(20学級)が20学級以上、次いで、第五中(18学級)、第一中(17学級)、第六中(15学級)、第三中(13学級)、第七中(12学級)となっています。
- ・第一中、第四中、第六中で増加傾向、第二中、第三中、第五中、第七中で減少傾向となっています。

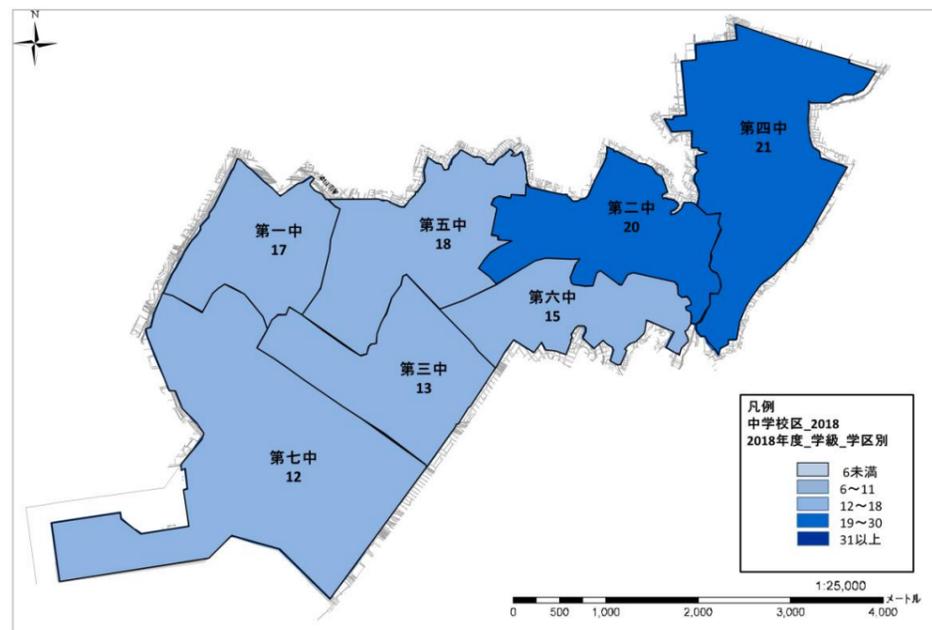
■今後の推移について

- ・第一中(21学級)、第四中(24学級)、第五中(21学級)、第六中(17学級)で増加することが予想されます。
- ・第二中(18学級)、第三中(10学級)、第七中(9学級)は減少傾向が続き、特に第三中、第七中は10学級以下となることが予想されます。

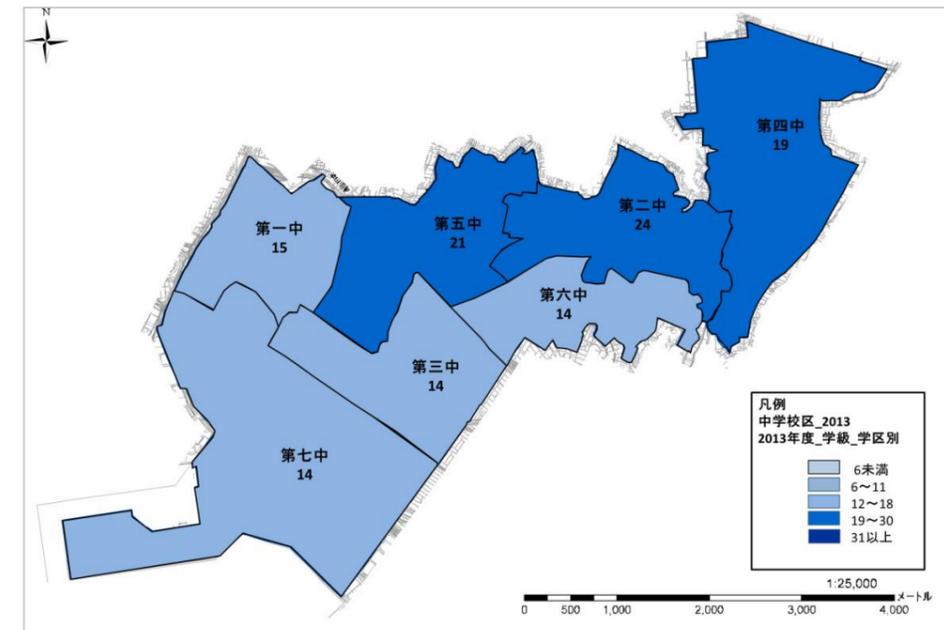
中学校別の学級数の推移(2013年→2023年)



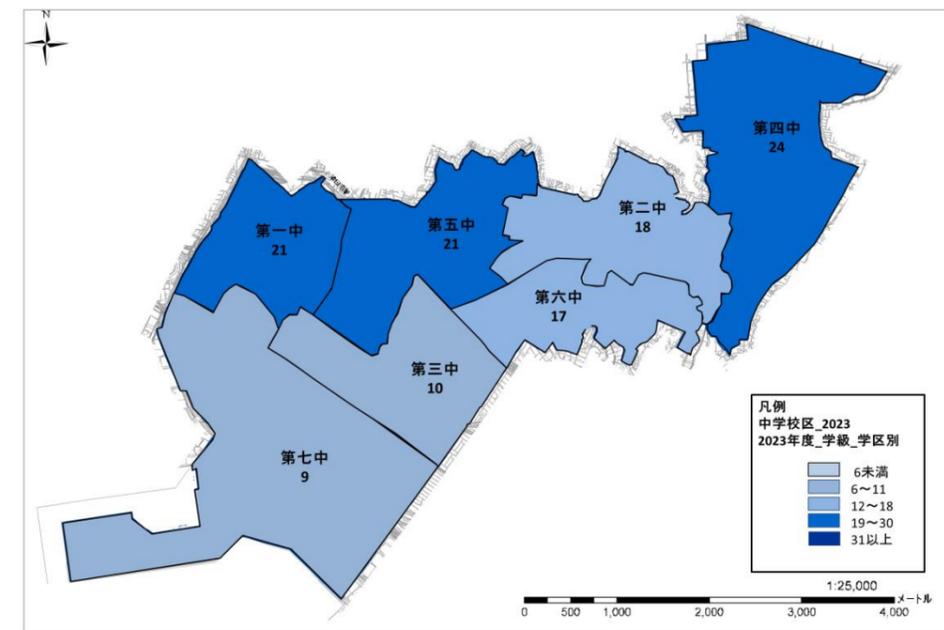
【2018年】



【2013年】



【2023年(推計値)】



■今後の維持・更新コストの試算

○長寿命化改修のイメージ

【習志野市の状況を踏まえた改修・改築期間の設定】(案)

習志野市の学校施設の状況を踏まえ、学校施設の長寿命化改修・改築のサイクルは、平成30年度時点で、「既存の施設(築後10年以上の施設)」と「築後10年未満及び今後改築する施設」の2種類に設定します。

なお、長寿命化改修の対象外の施設については、耐用年数後の改築、劣化状況等に応じて改修を行うこととします

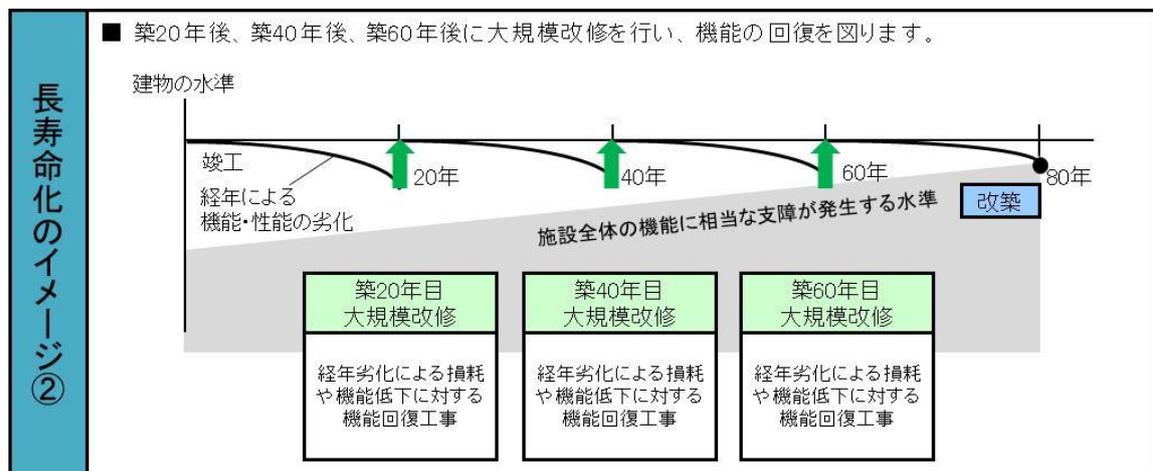
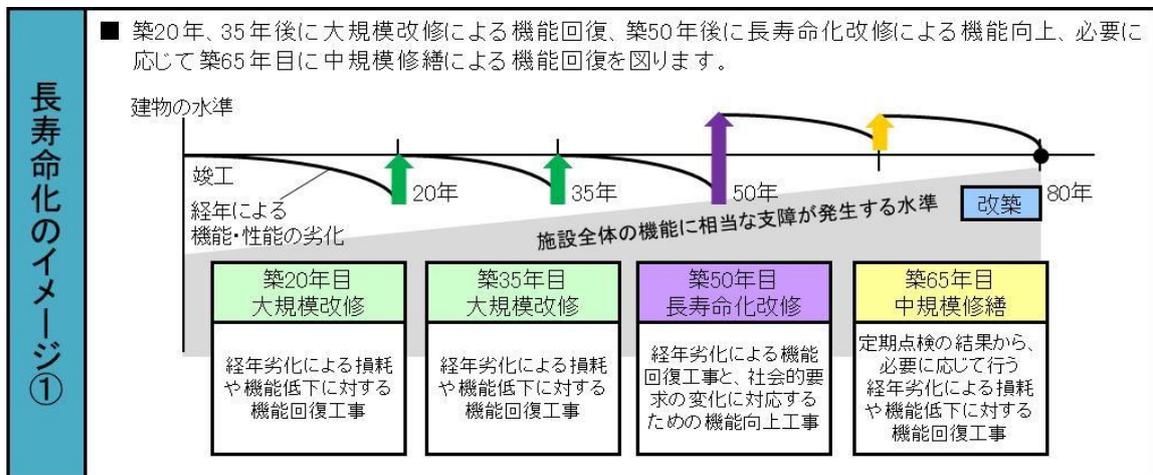
長寿命化のイメージ①: 既存の施設(築後10年以上の施設)

原則として、築20年後、築35年後に大規模改修、築50年後に長寿命化改修、築80年後に改築と設定します。また、長寿命化改修後、定期点検の結果から必要に応じて、築65年後に中規模修繕を行います。

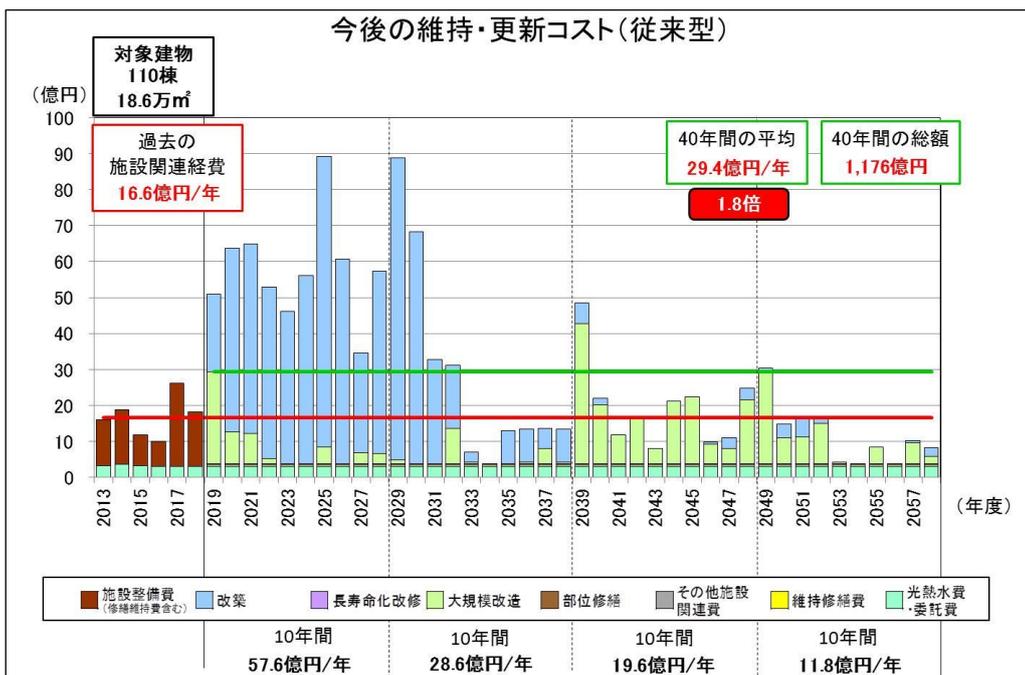
長寿命化のイメージ②: 築後10年未満及び今後改築する施設【改築後整備パターン】

原則として、築20年後、築40年後、築60年後に大規模改修、築80年後に改築と設定します。今後、改築を行う校舎は、耐用年数を80年として建築を実施するため、20年ごとに大規模改修を実施し、耐用年数を迎えるまでの80年間使用します。なお、各大規模改修における改修内容は、劣化部位、状況に応じて事業費の範囲内で検討し計画します。

※同一学校内で大きく建築時期が異なる施設がある場合は、改修・改築時期が分散しないよう考慮することとします。



○今後の維持・更新コスト(従来型)



○今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

○長寿命化及びコスト削減を行った結果、従来型と比較すると、施設関連経費は、今後40年間で約10%、今後20年間で約25%、今後10年間では約50%が削減され、平準化が図られています。

○ただし、過去5年間の施設関連経費と比較すると平均は1.6倍と依然と高い数値を示しており、今後さらなるコスト削減の検討、適正規模・適正配置を踏まえた施設規模の縮小といった検討試算による削減効果の検証が必要と考えられます。

